

令和5年度の自己点検・自己評価  
に対する学校関係者評価報告書

学校法人 赤門学院  
専門学校 赤門自動車整備大学校

## 第9回 学校関係者評価報告書

設置者	学校法人 赤門学院																			
学校名	専門学校 赤門自動車整備大学校																			
会議名	第9回 学校関係者評価委員会																			
開催日時	令和6年2月27日(火) 15:00 ~ 16:15																			
場所	宮城県仙台市青葉区川内川前丁61 専門学校赤門自動車整備大学校 3階会議室																			
出席者	<p>&lt; 学校関係者評価委員 &gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">阿部勝自動車工業株式会社</td> <td>代表取締役社長 阿部 勝敏 様</td> </tr> <tr> <td>宮城スバル自動車株式会社</td> <td>営業部 日の出店 サービス課課長 兼 営業支援統括部 技術支援課担当 課長 柴田 真太郎 様</td> </tr> </table> <p>&lt; 学校事務局 &gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>理事長・校長 國分 活妙</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>2・3級教務指導長 佐藤 信也</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>広報室・学生課 若生 千晶</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>事務長 早坂 義之</td> </tr> </table> <p>※出席者：6名 欠席者：なし</p> <p>&lt; その他 &gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>1・2級教務指導長 上田 忠之</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>2級教務指導長 皆川 幸正</td> </tr> <tr> <td>専門学校 赤門自動車整備大学校</td> <td>事務室職員 穴戸 茂樹</td> </tr> </table> <p>欠席者：専門学校 赤門自動車整備大学校 副校長 國分 龍人</p>		阿部勝自動車工業株式会社	代表取締役社長 阿部 勝敏 様	宮城スバル自動車株式会社	営業部 日の出店 サービス課課長 兼 営業支援統括部 技術支援課担当 課長 柴田 真太郎 様	専門学校 赤門自動車整備大学校	理事長・校長 國分 活妙	専門学校 赤門自動車整備大学校	2・3級教務指導長 佐藤 信也	専門学校 赤門自動車整備大学校	広報室・学生課 若生 千晶	専門学校 赤門自動車整備大学校	事務長 早坂 義之	専門学校 赤門自動車整備大学校	1・2級教務指導長 上田 忠之	専門学校 赤門自動車整備大学校	2級教務指導長 皆川 幸正	専門学校 赤門自動車整備大学校	事務室職員 穴戸 茂樹
阿部勝自動車工業株式会社	代表取締役社長 阿部 勝敏 様																			
宮城スバル自動車株式会社	営業部 日の出店 サービス課課長 兼 営業支援統括部 技術支援課担当 課長 柴田 真太郎 様																			
専門学校 赤門自動車整備大学校	理事長・校長 國分 活妙																			
専門学校 赤門自動車整備大学校	2・3級教務指導長 佐藤 信也																			
専門学校 赤門自動車整備大学校	広報室・学生課 若生 千晶																			
専門学校 赤門自動車整備大学校	事務長 早坂 義之																			
専門学校 赤門自動車整備大学校	1・2級教務指導長 上田 忠之																			
専門学校 赤門自動車整備大学校	2級教務指導長 皆川 幸正																			
専門学校 赤門自動車整備大学校	事務室職員 穴戸 茂樹																			
会議内容	<p>&lt; 次第 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会および理事長挨拶</li> <li>2. 自己評価の結果について説明</li> <li>3. 自己評価の結果について審議</li> <li>4. 閉会</li> </ol> <p>&lt; 説明 &gt;</p> <p>(1) 教育理念・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 留学生が多くなったため、令和3年4月1日に「留学生の教育方針」を制定した。</li> <li>● 日本人の教育方針と若干変更有。</li> <li>● 学生とのコミュニケーションを高める努力・強化をしてきた。(挨拶等) 長い年月をかけて行っていく。</li> </ul>																			

- 授業の中では5年度よりグループディスカッションを取り入れ、効果が上がってきている。
- 報連相の徹底。
- メモを取る習慣づけをする。
- 教育課程の見直しにもつなげる。離職しない学生を育てる。→自主性を育てる。(成功体験を増やす努力)
- 項目「学校における職業教育の特色は何か」の評価が4から3へ。

#### (2) 学校運営

- ほとんどの項目の評価がほぼ適切な3。
- 組織図に誰が担当か明確になっている。
- 項目「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」の評価が3から4へ。…広報の努力による。
- パソコンの入替が進んでいるが、出来る人に仕事が偏る。
- 分散化が進んだが、使用するフォーマットの統一化を進めているがまだまだである。
- サーバーの設置により教員が同じフォーマット、マニュアルを使用する。
- 人員確保が課題。→時間短縮へつなげる。

#### (3) 教育活動

- 目的に沿って活動できているのではないか。
- 項目「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」の評価が2から3へ。
- 教員不足を感じる。
- 留学生は日本人学生と比べ4～5倍手がかかる。
- セミナー受講を進めている。

#### (4) 学習成果

- 項目「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」の評価が3から2へ。  
→卒業生がどのように活躍しているか把握していく。
- 就職率は100%だが、就職先が偏っているのではないか。

#### (5) 学生支援

- 全ての項目がほぼ適切であった。
- 担任の負担が大きい→人材不足。分担を進めて学生に反映させる。

#### (6) 教育環境

- 充実してきているが、まだ古い教材もある。
- 項目「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」→評価は2のまま。
- インターンシップの実施→就職へ結びつけられるように。
- 参加出来る学生を増やす。

- 防災訓練の実施。

(7) 学生受入募集

- 全ての項目の評価がほぼ適切3であった。
- 日本人の学生確保が必要。→満足度が低いのではないか。
- 留学生は多い。→理由は就職率100%（口コミで広がる。）
- 学納金は柔軟な対応をしている。（納入期日）

(8) 財務

- 評価はほとんどの項目の評価がほぼ適切3であった。
- 財政…現状は安定しているが財務基盤の安定化が課題。
- 学生確保による納付金アップを実現し収入源確保につなげる。  
→収支均衡の実現
- 安定した運営→予算管理。公認会計士との連携。

(9) 法令等の遵守

- 項目「自己評価結果を公開しているか」の評価が4から3へ。  
→ホームページで公開していることを周知する。
- 個人情報の保護の認識アップ。

(10) 社会貢献・地域貢献

- テストコース貸出の継続。
- レンタルルームの認知度が上がっている。
- 広報活動を強化する。
- ボランティア活動は縮小傾向にある。
- 中学生の職場体験実施…コロナで停滞していたが今後増やしていく。

<審議内容>

- 赤門の学生は礼儀正しい。（躰が行き届いている。）赤門からの採用も検討していきたい。インターンシップ3日でなく、7日位預けて欲しい。
- 夏休みのインターンシップ…予想より学生の応募が多かったため、参加できない学生が出てしまった。インターンシップが学生の勉強に力が入るきっかけになるのではないか。
- もっと企業に興味を持ってもらいたい。
- 3年以内の離職はゼロである。  
学習成果と教育環境について  
…総合職の採用は進んでいる。大学生2年生の秋からインターンシップ実施。授業の一コマをいただく。授業の一旦としてインターンシップを採用してもらえるとありがたい。入社までの接触回数平均20回程度である。インターンシップについては7～14日位もしくは3日程度公的な時間を確保して預けて欲しい。
- 1年生の内定は10月位から出てくる。
- 職人気質の整備士が少なくなってきたので、逆にやりやすくなっている。

るのではないか。

- インターンシップのイメージが変わった。県内の採用試験は早くなってきている傾向である。
- 従業員の構成比は平成生まれが6割である。平成生まれの方が働きやすい環境を作る。離職しない方法も考えている。
- 大型車の販売会社も同様の話がある。
- 残業や休日の自由度が大切。有休消化はほぼ100%。3～4年経過。インターンシップは形式から脱却し重要度が増している。

<その他>

スケジュールが厳しい中、皆様のご協力により無事取りまとめることが出来たことに感謝を申し上げます。自己評価表に回答した教職員の中には、評価点を一部付け忘れ等もありましたが、概ね回答されていると判断しました。

今後の課題としては、自己評価表で記載されている「課題」を解決するために「今後の改善方策」をどの位実行できるかであると考えております。前年度に比べて改善が進んでいる項目もあることから、今後も改善が進むように努力をしていきたい。

以上